

都市再生整備計画 事後評価シート
青海地区

平成30年3月


新潟県糸魚川市

様式2-1 評価結果のまとめ

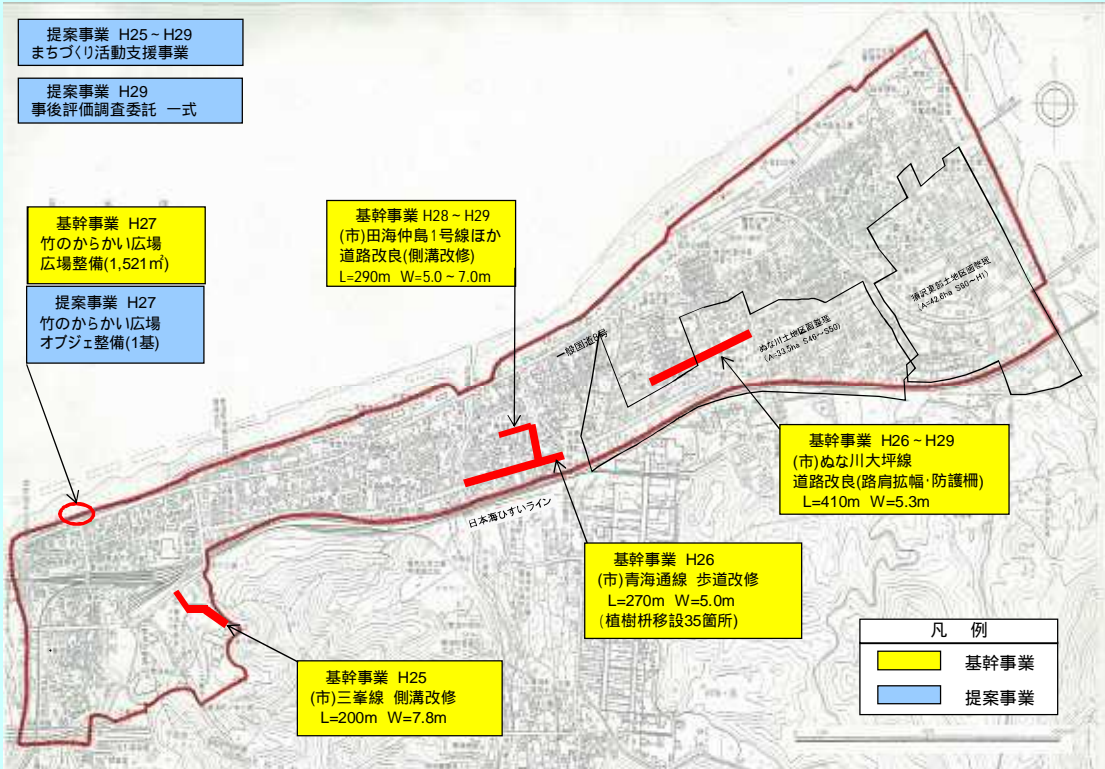
都道府県名	新潟県	市町村名	糸魚川市	地区名	青海地区			面積	237ha			
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	141.5百万円	国費率	40%					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路((市)三峯線、(市)青海通線、(市)ぬな川大坪線、(市)田海仲島1号線ほか、(市)南寺町1号線)、地域生活基盤施設(竹のからかい広場)									
		提案事業	地域創造支援事業(竹のからかい広場(オブジェ))、事業活用調査(事後評価)、まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援事業)									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路((市)南寺町1号線)	削除/追加の理由 事業の緊急性を検討した結果、削除する方針となったため、事業削除				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 対象事業から1路線を削除したことにより、指標1「安全に通行できる人数の増加率」の目標値を修正				
		提案事業	-	-				-				
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-				-				
		提案事業	-	-				-				
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	変更なし										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
	指標1	安全に通行できる人数の増加率	%	0	H24	36.2	H29	-	38.6	あり なし	生活道路の改良整備により、安全で歩きやすい歩行空間が創出され、歩行者の安全な通行が確保された。	平成30年4月
	指標2	避難所となる公園の未整備率	%	4.1	H24	2.0	H27	-	2.0	あり なし	竹のからかい広場の整備により、避難所機能を有する公園が確保され、半径300m以内での避難可能な公園の未整備率の改善につながった。	-
指標3	地域環境美化活動参加者数	人	2,700	H24	3,000	H29	-	3,300	あり なし	地域の環境美化活動に取り組む住民への支援により、住民のまちづくりに対する意識が高まり、環境美化活動に積極的に参加する住民が増加した。	平成30年4月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
その他の数値指標1	/											
その他の数値指標2	/											
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 生活道路である(市)三峯線等の側溝整備を行ったことで、児童・生徒の通学路における交通安全が確保された。 竹のからかい広場は、防災拠点並びに地域住民の憩いの場であるほか、国の重要無形民俗文化財である「竹のからかい」のアピールの場でもあり、青海駅前から続く竹のからかいシンボルロードと一体となって地域の魅力を伝えている。 											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	まちづくり活動支援事業の実施過程において、住民参加のもとで、花植え活動や草刈り活動を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				活動の広がりを応援するとともに、住民参画による協働のまちづくりを推進していく。					
持続的なまちづくり体制の構築	なし(既存自治会の組織基盤や活動体制がある程度整っているため、既存組織で対応)	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も既存組織で対応していくとともに、自治会の活動を積極的に支援し、地域コミュニティの活性化と持続可能なまちづくりを推進していく。						

様式2-2 地区の概要

青海地区(新潟県糸魚川市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
子どもからお年寄りまで安心して暮らせる、安全なまちづくり 小目標1:安全に通学ができる生活の道づくり 小目標2:安心して生活するための防災機能の充実		安全に通行できる人数の増加率	単位: %	0	H24	36.2	H29	38.6	H29
		避難所となる公園の未整備率	単位: %	4.1	H24	2.0	H27	2.0	H27
		地域環境美化活動参加者数	単位: 人	2,700	H24	3,000	H29	3,300	H29



竹のからかい広場
(基幹事業 地域生活基盤施設)



提案事業 H25-H29
まちづくり活動支援事業

提案事業 H29
事後評価調査委託 一式

基幹事業 H27
竹のからかい広場
広場整備(1,521㎡)

提案事業 H27
竹のからかい広場
オブジェ整備(1基)


基幹事業 H28-H29
(市)田海仲島1号線ほか
道路改良(側溝改修)
L=290m W=5.0-7.0m

基幹事業 H26-H29
(市)ぬな川大坪線
道路改良(路肩拡幅・防護柵)
L=410m W=5.3m


基幹事業 H26
(市)青海通線 歩道改修
L=270m W=5.0m
(植樹樹移植35箇所)

基幹事業 H25
(市)三峯線 側溝改修
L=200m W=7.8m


凡例
■ 基幹事業
■ 提案事業




(市)青海通線 歩道改修
(基幹事業 道路)



(市)三峯線 側溝改修
(基幹事業 道路)



(市)ぬな川大坪線 道路改良
(基幹事業 道路)



(市)田海仲島1号線ほか 道路改良
(基幹事業 道路)

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 道路の側溝改修や路肩拡幅整備、歩道改修等により生活道路や通学路の安全な歩行環境が創出され、地区住民や通学児童・生徒の道路通行の安全性が確保された。 竹のからかい広場の整備により地域の避難場所が確保されるとともに、半径300m以内での避難可能な公園の空白地が縮減され、避難所となる公園の未整備率の改善につながったが、今後は津波の被害も想定し、避難所となる空白地の整備を進めていく必要がある。 環境美化活動に取り組む住民等への支援によりまちづくりに対する住民意識が高まり、活動参加者数が増加し、地域コミュニティの活性化に寄与している。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 整備した道路の維持管理に努めるとともに、地区内の他の路線についても、地区住民や通学児童・生徒の通行の安心安全を図る。 竹のからかい広場での防災訓練の実施や防災イベントの開催など、防災面からの広場の有効活用を推進することにより、地域住民の防災意識を高め、地域防災力の向上を目指す。 都市再生整備計画事業終了後も住民主体のまちづくり活動を継続的に続けるため、高齢化や資金の面も見据えた仕組みづくりを検討し、住民のまちづくり活動への参加意識を高めていく。 津波対策も含め、残りの避難所となる空白地にも、避難所の役割としての機能を持つ公園・広場の整備や、避難ルートとなる道路機能の強化を検討する。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標			-	-	-
B. 目標を定量化する指標			-	-	-
C. 目標値			安全に通行できる人数の増加率:37.5%	安全に通行できる人数の増加率:36.2%	対象事業から、道路1路線を削除したことにより、目標値を下方修正した
D. その他()					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ¹ (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(市)三峯線	14.0	側溝改修 L=200m	11.0	側溝改修 L=200m	事業内容の精査による事業費の減額	影響なし		
道路	(市)青海通線	12.0	歩道改修 (植樹柵移設) L=270m	25.0	歩道改修 (植樹柵移設) L=270m	電柱移転に伴う補償が必要になったことによる事業費の増額	影響なし		
道路	(市)ぬな川大坪線	16.0	道路改良 (路肩拡幅・防護柵) L=410m	36.0	道路改良 (路肩拡幅・防護柵) L=410m	工法の見直しによる事業費の増額	影響なし		
道路	(市)田海仲島1号線ほか	15.0	側溝改修 L=290m	15.0	側溝改修 L=290m	-	-		
道路	(市)南寺町1号線	25.0	側溝改修 L=408m	-	-	事業の緊急性の観点からの検討結果による事業の削除	事業削除により、指標1「安全に通行できる人数の増加率」の目標値を修正	-	
地域生活基盤施設	竹のからかい広場	47.0	A=1,521㎡	47.0	A=1,521㎡	-	-		
地域生活基盤施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									

¹: 事業費の大規模変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度			基準年度		目標年度					あり	なし		
指標1	安全に通行できる人数の増加率	%	計測時期:平成29年9月 実施主体:建設課 対象:整備済道路に係る小学校区人口と沿線住民数 具体手法:平成29年8月末時点における住民基本台帳人口と過去5年間の傾向から、平成30年3月末における計画区域人口と安全に通行できる人数を推計し、計画区域人口に対する安全に通行できる人数(沿線住民数)の割合を算出し、評価値(見込み値)とする。	0		0	H24	36.2	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定	見込み	38.6	事後評価		
指標2	避難所となる公園の未整備率	%	計測時期:平成29年9月 実施主体:建設課 対象:避難可能な公園等の半径300m圏域から外れる地区 具体手法:「竹のからかい広場」を含め、計画区域内で避難可能な公園等の半径300m圏域から外れる地区の面積割合を算定し、評価値(確定値)とする。	-		4.1	H24	2.0	H27	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定	見込み	2.0	事後評価		
指標3	地域環境美化活動参加者数	人	計測時期:平成29年9月 実施主体:建設課 対象:計画区域内における清掃、美化活動参加者数 具体手法:平成29年8月末時点における清掃、美化活動参加者数と過去5年間の傾向から、平成30年3月末時点における清掃、美化活動参加者数を推計し、評価値(見込み値)とする。	-		2,700	H24	3,000	H29	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
										事後評価	確定	見込み	3,300	事後評価		

指標	目標達成度 × の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	(市)三峯線ほか3路線の改良整備により、生活道路や通学路の安全な通行環境が創出され、地区住民や通学児童・生徒の通行の安全性が高まったことにより、目標値を達成する結果となった。	-
指標2	竹のからかい広場の整備により、歩行により概ね5分(半径300m以内)で移動できる避難可能な公園の空白地が縮減され、避難所機能を有する公園の未整備率の改善につながった。	-
指標3	地域の環境美化に自主的に取組む住民等に対し、活動を支援したことにより、まちづくりに対する住民意識が高まり、活動参加者数の増加につながった。	-

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

2 目標達成度の記入方法

・評価値が目標値を上回った場合

・評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

× : 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ¹ 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
		単 位	基準 年度	基準 年度	基準 年度			
その他の 数値指標1						モニタリング		
						事後評価		
その他の 数値指標2						モニタリング		
						事後評価		

¹ 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

生活道路である(市)三峯線等の側溝整備を行ったことで、児童・生徒の通学路における交通安全が確保された。
 ・竹のからかい広場は、防災拠点並びに地域住民の憩いの場であるほか、国の重要無形民俗文化財である「竹のからかい」のアピールの場でもあり、青海駅前から続く竹のからかいシンボルロードと一体となって地域の魅力を伝えている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり活動支援事業の実施過程において、住民参加のもとで、花植え活動や草刈り活動を実施。	予定どおり実施した	〔須沢地区〕 花植え活動 ・年2回(6、11月)程度活動 ・参加者数が年々増加し、地域コミュニティの形成に寄与している。 〔東町地区〕 草刈り活動 ・年3回(5、8、10月)程度活動 ・周辺環境の改善に努めている。	環境美化活動の輪が広がるよう支援していくとともに、こうした活動を通して、多様な担い手がまちづくりに参画し、住民、行政が一体となったまちづくりを推進していく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		・体制構築に向けた取組内容	・まちづくり組織名・組織の概要	
なし (既存自治会の組織基盤や活動体制が整っているため、既存組織で対応)	予定どおり実施した			今後も既存組織で対応していくとともに、自治会の活動を積極的に支援し、地域コミュニティの活性化と持続可能なまちづくりを推進していく。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業評価庁内検討会議	青海事務所、環境生活課、文化振興課	各事業関係課と意見交換を実施 平成29年11月24日	建設課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3				
指標名		安全に通行できる人数の増加率		避難所となる公園の未整備率		環境美化活動参加者数				
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見			
基幹事業	道路整備((市)三峯線)		(市)三峯線ほか3路線の改良整備により、生活道路や通学路の安全な通行環境が創出され、地区住民や通学児童・生徒の道路通行の安全性が高まり、安全な居住環境の向上に寄与している。	-	竹のからかい広場の整備により、地域住民の憩いの場が創出されるとともに、歩行により概ね5分(半径300m以内)で移動できる避難可能な公園の空白地が縮減され、避難所となる公園の未整備率の改善につながった。	-	海岸清掃や緑化等の環境美化活動に主体的に取り組む住民等に対し、活動を支援したことにより、まちづくりに対する住民意識が高まりをみせ、環境美化活動に自主的に参加する住民が増加した。			
	道路整備((市)青海通線)			-						
	道路整備((市)ぬな川大坪線)			-						
	道路整備((市)田海仲島1号線ほか)			-						
	地域生活基盤施設(竹のからかい広場)	-		-						
提案事業	地域創造支援事業(竹のからかい広場(オブジェ))	-				-			-	
	事業活用調査(事後評価調査事業)	-				-			-	
	まちづくり活動推進事業(まちづくり活動支援事業)	-				-			-	
関連事業										

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	整備された道路の適切な維持管理に努め、安全な通行環境を確保する。	糸魚川大火の教訓を踏まえ、地域の共助力を高めるために、竹のからかい広場を活用したハード・ソフト両面の防災施策を推進する。	住民主体のまちづくり活動の機運がさらに高まり、活発な活動が展開されるよう、まちづくりに関する意識啓発や後方支援に努める。
-------	----------------------------------	--	--

添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- ：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

要因の分類

- 分類：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業評価庁内検討会議	青海事務所、環境生活課、文化振興課	各事業関係課と意見交換を実施 平成29年11月24日	建設課(都市再生整備計画事業主管課)

添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
安全な居住環境をつくるための生活の道づくり	道路の側溝改修や路肩拡幅整備、歩道改修等により、生活道路や通学路の安全な歩行環境が創出され、地区住民や通学児童・生徒の道路通行の安全性が確保された。	-	
地域の防災力を高める避難所の整備	竹のからかい広場の整備により、地域の避難場所が確保されるとともに、半径300m以内での避難可能な公園の空白地が縮減され、避難所となる公園の未整備率の改善につながった。	津波の被害も想定して、避難所となる空白地の整備を進めていく。	
地域コミュニティへの参加促進による、住みよいまちづくり	環境美化活動に取り組む住民等への支援により、まちづくりに対する住民意識が高まり、活動参加者数が増加し、地域コミュニティの活性化に寄与している。	-	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

添付様式5 - 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	安全で快適な歩行空間の維持	整備した道路の維持管理に努めるとともに、地区内の他の路線についても、地区住民や通学児童・生徒の通行の安心安全を図る。	・生活道路の維持管理 ・生活道路の安全対策事業
	地域の防災力向上に向けた取組み	竹のからかい広場での防災訓練の実施や防災イベントの開催など、防災面からの広場の有効活用を推進することにより、地域住民の防災意識を高め、地域防災力の向上を目指す。	・防災訓練、避難訓練の実施 ・防災イベントの開催 ・住民への防災意識の啓発
	住民主体のまちづくり活動の意識啓発	事業終了後の活動継続に向け、高齢化や資金の面も見据えた仕組みづくりを検討し、住民のまちづくり活動への参加意識を高めていく。	・まちづくり活動リーダーの養成 ・活動実践の機会の提供 ・若者への活動参加呼びかけ

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	残りの避難所となる空白地の解消	津波対策も含め、残りの避難所となる空白地にも避難所となる公園や、避難ルートとなる道路の機能の強化を検討する。	・津波被害を想定とした避難所の設置 ・避難ルートとなる道路の整備

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 -)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 -)を再確認した。

添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

特になし。

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	特になし	事業を実施することで生み出された成果を指標として設定する必要がある。
	うまく いかなかった点	設定した指標の一部が、事業を実施すれば達成するアウトプット指標であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	事業目標の達成に関連の深い数値目標を設定し、効果的に事業を実施することができた。	事業目的と指標との相関関係を整理して、計画を作成することが有効である。
	うまく いかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくり活動支援事業の実施過程において、住民参加のもとで、花植え活動や草刈り活動を実施することができた。	住民がまちづくりに直接関わることができる機会を出来る限り提供し、住民と行政が一体となって地域づくりに取組むことが望まれる。
	うまく いかなかった点	特になし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価を実施したことにより、一連の事業実施効果が数値として明らかとなり、残された課題や効果の持続を図るべき事項が明確となった。	一連の事業実施にあたって、目標及びこれを数値化する適切な指標を設定し、事業の実施過程及び実施後にこれをチェックしながら今後のまちづくりに活かすことは、まちづくりを計画的、継続的に進める上で有効なシステムである。
	うまく いかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	-
	うまく いかなかった点	特になし	

添付様式6 - 参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

都市再生整備計画事業
糸魚川駅北地区(H29～H33年度)

事後評価
未定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに記載	平成29年11月30日(木)～ 平成29年12月14日(木)	平成29年11月30日(木)～ 平成29年12月14日(木)	担当課への郵送、 FAX、電子メール	建設課(都市再生整備 計画事業主管課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページ及び 担当課窓口で原案を公表して いる旨を掲載	平成29年11月25日(土)発行 広報いといがわ おしらせばん No.305	平成29年11月30日(木)～ 平成29年12月14日(木)		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	窓口閲覧(建設課、青海事務 所)	平成29年11月30日(木)～ 平成29年12月14日(木) 土日祝日除く	平成29年11月30日(木)～ 平成29年12月14日(木) 土日祝日除く		

住民の意見	特になし。				
-------	-------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中出 文平 (長岡技術科学大学 副学長)	平成29年12月25日	建設課 (都市再生整備計画事業 主管課)	糸魚川市都市再生整備 計画事業評価委員会設 置要綱	独自に設置
その他の委員	山崎 利行 (青海地区住民) 松沢久美子 (青海地区住民)				

審議事項 1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・全ての指標において、目標は達成したと確認された。 ・指標1の「安全に通行できる人数の増加率」では、整備したガードレールが、子どもたちの通学等の安全面の確保に非常に効果があったと理解しているという意見があった。
	実施過程の評価	・実施過程については適正であると確認された。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案は、市民に分かりやすく公表されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・「安全で快適な歩行空間の維持」に向けて、地区内に他にも整備すべき道路が残っていることを述べるべきではという意見があった。 ・「地域の防災力の向上」に向けて、残りの避難所となる空白地の整備と、津波を想定した住民への意識啓発に努める必要があるという意見があった。 ・「住民主体のまちづくり活動の継続支援」に向けて、本事業終了後も活動を継続していくために、高齢化や資金の面も見据えた仕組みづくりを検討していくべきとの意見があった。 ・海岸には他県から多くの観光客が訪れるが、そのマナーが気になるため、地元住民のみならず観光客も清掃に対する意識がけを強化していくべきではないかという意見があった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・次期計画の検討も視野に入れてほしいという意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考してください。